

令和6年度

# 山梨県総合教育センター研究大会

新しい時代の学校教育の実現に向けた総合的な支援の充実

— 求められる資質・能力の育成に向けた実践的指導、校内研究の在り方 —



令和7年2月26日 13:00～16:50

オンライン配信

開催行事 13:00～13:20

特別講演会 13:30～15:10

演題「『子どもが主役』の授業への転換  
～加賀市教育委員会の改革から学ぶ～」

加賀市教育長 島谷 千春 氏

研究発表 15:25～15:50

グループセッション 16:05～16:50 (ブレイクアウトルーム)



YAMANASHI PREFECTURAL  
EDUCATION CENTER

## 目 次

- 基調提案 P. 1 - 2
- 特別講演会資料 P. 3
- 令和7年度研究推進校募集について P. 4

## 開催行事次第

- 開会のことば
  - 1 県教育委員会あいさつ 教 育 長 降籬 友宏
  - 2 所長あいさつ 所 長 天野 信一
  - 3 山梨大学アドバイザー紹介 次 長 重田 誠
  - 4 基調提案 教育研究推進幹 平沼 公香
- 閉会のことば



# 令和6年度 山梨県総合教育センター研究大会

## 基調提案

### —研究主題—

## 「新しい時代の学校教育の実現に向けた総合的な支援の充実」 ～求められる資質・能力の育成に向けた実践的指導、校内研究の在り方～

本センターの調査研究及び研究支援分野における役割は、国並びに本県の教育施策を踏まえ、関係機関と連携し、教育資源の収集・発信を行い、本県の学校教育への支援を行うことにより、学校教育の振興を図ることであると考えます。この考えに基づき、本センターの基本方針である「学校教育を支援する確かな情報発信源としての総合教育センター」の具現化のため、学校の現状に即し、今日的な教育課題解決に向け、必要とされる実践的な学校支援や校内研究支援を推進してきました。

本年度、学校では「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、全ての子供たちの可能性を引き出す、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に繋げる取組を、校内研究を中心に進められました。また、誰一人取り残すことのない教育、安心安全な学校づくり、GIGA スクール構想の実現、子供の学びや教職員を支える環境整備等、校内研究以外にも学校に求められる課題は多岐にわたりました。

本県においては、令和6年4月より、新たに策定した山梨県教育振興基本計画において「主体的に学び 他者と協働し 豊かな未来を拓く やまなしの人づくり～誰もが教育の機会にアクセスできるやまなし～」を基本理念に、「未来を生きる子供に必要な力を育む教育の推進」「誰もが可能性を伸ばせる教育の推進」「教育 DX の推進」「学校を取り巻く教育環境の整備」の4つの基本目標に向けた取組が始まりました。特に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が求められ、「子供主体の授業」への授業観の転換は、各学校の校内研究の主軸となっていました。さらには、子供たちの居場所となる安心安全な環境づくりや学級集団づくり、いじめ・不登校への組織的な支援体制の充実等、喫緊の課題への対応も求められ、指導主事への訪問要請も増加してきているところです。

このような状況を踏まえ、本センターでは、これからを生きる子供たちの学びへの支援という視点から、本年度の研究主題を『「新しい時代の学校教育の実現に向けた総合的な支援の充実」～求められる資質・能力の育成に向けた実践的指導、校内研究の在り方～』とし、研究推進校と協同研究を進めるとともに、必要とされる課題解決に向けた実践的な学校支援の在り方を研究してきました。

今年度の研究は、教員の授業改善や指導力向上につながる校内研究支援の在り方、研究推進校の探究プログラム改善に向けた支援、ICT 指導力向上に向けた支援の在り方といった学校の教育研究への支援と、不登校に関する教育相談、学習障害に関する支援、教育支援センターの機能強化に向けた支援といった相談支援センターによる学校支援というテーマを、それぞれの領域で設定し推進してきました。研究推進校の校内研究や全県の教育活動を支える具体的かつ実践的な研究は、本センターで実施する研修や相談業務等の充実にも繋がることから、センターにおける調査研究と研修の一体化に努めるとともに、県下の学校教育を支援する汎用性のある研究となることを目標に取り組んでおります。

山梨県総合教育センターでは、今後も「知の拠点」としてシンクタンク機能の充実を目指し、本県学校教育の振興と充実に寄与できるよう研究を進めてまいります。

## □ 研究の概要

### 1 研究支援

#### (1) 基本方針

- ①「知の拠点」としてのシンクタンク機能を充実させ、教育課題の解決を図るため、「調査研究」「学校支援」「教育情報収集・分析」の機能を積極的に連携させる。
- ②学校現場のニーズに応じた支援とともに、研究が持続できるように支援を行い、主体的な校内研究の実現に資する。
- ③各研究支援領域に応じ研究推進校（センターによる校内研究支援対象校）を選定し、実践的な研究支援を基盤とした研究推進校との協同研究を推進する。
- ④「本センターによる研究支援及び研究支援を基盤とした研究の成果」と「研究推進校の校内研究における成果」とを県内に広く周知する。
- ⑤各種学力調査の結果分析を生かした研究及び研究支援を充実させるため、山梨大学等の外部機関

との連携を図る。

- ⑥喫緊の教育課題や教科・領域等に関する研究及び研究支援を推進し、研修・調査研究・情報教育・相談支援に関わる業務及び学校訪問時の指導の充実等、各指導主事の資質・能力の向上に資する。

## (2) 研究内容 ※詳細は、各チームの研究発表資料をご覧ください。

### ①授業づくり・学校づくりⅠ

「教員の授業改善につながる校内研究支援の在り方」

—研究推進校が目指す児童の具現化と教員一人一人の

自律的な学びに資する校内研究支援を通して—

【研究推進校 鳥沢小学校】

### ②授業づくり・学校づくりⅡ

「教師の指導力向上につながる校内研究支援の在り方」

—対話的な学びの充実に繋がる校内研究支援を通して—

【研究推進校 都留第一中学校】

### ③授業づくり・学校づくりⅢ

「『自らの夢を実現できる生徒の育成』に向けた支援」

—「DREAMS COME TRUE SYSTEM」のアップデートに向けて—

【研究推進校 上野原高等学校】

### ④授業づくり・学校づくりⅣ

「全国学力・学習状況調査の結果分析を生かした授業改善」

【データ分析WG協力校 楡形中学校】

### ⑤情報教育

「BYOD 端末の活用による ICT 指導力向上に向けた支援の在り方」

—授業の振り返りを主軸とした都留高 DX に向けて—

【研究推進校 都留高等学校】

### ⑥教育相談

「有効的な支援方法について」

—不登校支援事例の質的分析を通して—

### ⑦特別支援教育

「学習障害の理解と支援に関する研究」

—背景要因の把握とつまずきに応じた指導支援の充実をめざして—

### ⑧教育支援

「教育支援センターの機能強化を図る具体的な支援を探る」

—教育支援センターに求められる機能に注目して—

## 2 研究支援の成果と課題

### (1) 成果

- ・研究推進校の研究主題や教育課題に即した学習会の実施、各種学力調査の結果分析の活用、ICT の効果的な活用法の提案等により、学習指導における課題や児童生徒の学習のつまずき等を校内で共有し、授業の改善に繋げるなど、研究推進校のニーズに応じた研究支援を推進した。
- ・山梨大学との連携により各領域にアドバイザーとして所属していただき、本センターへの指導・助言及び研究推進校への指導・助言を行えたことは、各々の研究の充実・活性化に繋がった。
- ・研究推進校との連絡・調整を図り、指導主事の研究推進校への訪問は1校につき平均約12回、研究主任等とのオンライン会議は1校につき平均約8回、訪問延べ人数は1校につき平均24名となり、継続して研究支援を行った。
- ・相談支援領域においては、事例の統計分析や教育現場のニーズや実態に応じた内容で研究を推進し、学校で活用する成果物や研修プログラムの作成を行った。

### (2) 課題

- ・研究推進校の主体的な校内研究の推進を支援するため、本センターの強みを生かした研究支援の在り方をさらに追究するとともに、研究支援が汎用性のあるものとなりえるか成果を検証する方法を精査する等、本センターの研究におけるPDCAサイクルをより確実なものにする。
- ・本研究は、学校の教育研究を支援することとその支援の在り方を研究することであるため、研究領域・チーム間の連携をさらに強化し、組織的な協同研究を推進する。
- ・本県の学校教育活動の資質・能力の向上に資するよう、本センターが実施する研修や研究推進校の拡大校内研等の研究会をはじめ、本センターで作成する資料各種、学校訪問時の指導・助言、相談支援等において、研究の成果を積極的に活用・発信する。

山梨県総合教育センター  
特別講演会

演題

「『子どもが主役』の授業への転換  
～加賀市教育委員会の改革から学ぶ～」

講師

加賀市教育長 島谷 千春 氏  
しまたに ちはる

そろえる教育  
から  
伸ばす教育へ



山梨県総合教育センター  
特別講演会 講師の紹介

【略歴】

平成17年文部科学省入省  
文部科学省大臣官房国際課専門官  
横浜市教育委員会事務局教育政策推進課担当課長  
文部科学省初等中等教育局財務課校務改善専門官  
内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官付参事官補佐  
などを歴任

特別講演会では...

子どもの「今」も「未来」も幸せにする。well-beingを実現する  
学びの改革。授業から学校は変わる。学校現場と教育委員会で一  
緒に変えていく。地域と一緒に創っていく。

“BE THE PLAYER”

— 自分で考え 動く 生み出す そして 社会を変える —

加賀市の熱い取組から学びます。新たな取組を「自分事」として  
捉え、失敗を恐れずチャレンジする学校であるために。



# 令和7年度 研究推進校の募集について

山梨県総合教育センター

山梨県総合教育センターでは令和7年度も引き続き、**学校が進める校内研究を全面的に支援し、研究主題や目指す児童生徒像等の実現のために、学校と協同研究を推進していきます。**

本センターの研究領域（チーム）の専門性を生かしながら、学校や先生方のニーズに応じた校内研究支援と各学校の研究主題に基づく効果的な取組の実践検証を進めていくというスタンスで支援にあたります。

また、今日的な教育課題への効果的な対応を校内研究への支援を通じて見出し、具体的実践例を県下に情報提供するとともに、本センターにおける調査研究・研修・情報教育・相談支援等の業務に生かし、その機能の充実を図っていきたいと考えます。

以上の趣旨から、**本センターの指導主事の支援のもとで、校内研究を進める学校（研究推進校）を募集します。** 研究大会において各領域（チーム）の研究内容の詳細をご覧ください、本センターの研究支援を希望する場合は、下記の連絡先にご連絡ください。

## 1 令和7年度に募集する研究領域・校種・校数・期間

### 「授業づくり・学校づくり」領域

- ・期間は、令和7～8年度の2年間とします。
- ・本センターの研究大会（2月実施予定）にて校内研究の成果等を発表していただきます。

○研究推進校として、小学校1校を募集します。（中学校・高等学校はR8に募集予定）

#### <研究内容の例>

○新しい時代の学校教育の実現に向けた職員の授業観の転換、授業の改善・充実

- ・子供主体の授業への転換
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- ・指導と評価の一体化による学習評価の改善 等

○校内研究の充実・活性化、新たな教師の学びの姿

- ・ICTの利活用
- ・カリキュラム・マネジメントの充実、PDCAの確立
- ・教員の協働意識の醸成
- ・研修観の転換 等

## 2 令和7年度 募集の流れ（問合せ窓口：本センター 調査研究課）

※研究内容や支援の内容についてお気軽にお問い合わせください。

- ① 3月13日（木）までに学校長の承諾のもと、「研究支援希望連絡票」（様式1）を以下へメールにて送信してください。
- ②（様式1）を受領後、本センターより当該校の担当者へ「研究計画書」（様式2）の提出案内を行います。
- ③ 提出書類等による審査、関係機関との協議等を経て、3月末までに当該校へ結果を通知します。

**連絡先：調査研究課メールアドレス：ypec-chouken@kai.ed.jp（TEL：055-262-6180）**

(様式1)

□研究支援希望連絡票 (鑑不要 本票のみメールにてお送りください。)

令和7年度 山梨県総合教育センター研究支援希望連絡票

《提出期限 3/13 (木)》

1 学 校 名 \_\_\_\_\_

2 校 長 名 \_\_\_\_\_

3 所 在 地 (〒 \_\_\_\_\_ )

4 連 絡 先 TEL \_\_\_\_\_

学校代表メール \_\_\_\_\_

5 この件についての校内担当者 (校務分掌)

氏名 \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_ )

6 令和6年度校内研究主題 \_\_\_\_\_

7 研究への支援を求めたい研究領域・内容

(1) 「授業づくり・学校づくり」領域 研究推進校 (小学校)

内容 : \_\_\_\_\_

8 研究支援を希望した主な理由 (箇条書き可)

※この(様式1)を本センターのウェブサイトからダウンロードし、必要事項を記入の上、  
下記 調査研究課担当メールアドレスにお送りください。  
受領確認後、学校代表メール宛にメールにて連絡いたします。

(調査研究課メールアドレス : [ypc-chouken@kai.ed.jp](mailto:ypc-chouken@kai.ed.jp))

(様式2)

## 研究計画書 (A4表1枚以内)

令和 年 月 日

学校名		校長名	印
所在地	〒		
連絡先	TEL	e-mail	
児童数	※R7年度見込数 1年( ) 2年( ) 3年( ) 4年( ) 5年( ) 6年( ) 合計( )		
教職員数	( )名 ※R7年度見込数	令和6年度 研究主任名	
令和6年度 研究主題等			

1 研究領域 (○をつけてください)	「授業づくり・学校づくり」 <b>研究推進校</b>
2 1を選択した理由・留意点	(例) 本校は～～ 主体的・対話的で深い学びの授業の実現のために、総合教育センターの支援のもと、研究推進していきたいと考えている。
3 令和7年度 研究概要(見込)	(例) 来年度は、全国学力・学習状況調査の結果分析から、本校の経年的課題を～ 授業改善を計画的に図るために、総合教育センターの支援のもと、研究推進を進めていきたいと考えている。
4 令和7年度 研究の構想・計画	(例) 4月 研究主題・仮説・研究内容・研究計画 5月 学習会 6月 提案授業 7月 授業研究 8月 研修会 9月 ブロック研究 10月 授業研究会 11月 拡大校内研究会(※公開予定) 12月 研究のまとめ 1月 アンケート結果分析 2月 研究の総括 ※1年間のみの表記でOK
5 その他 (留意点・質問)	・ ・

# 令和7年度 小学校チーム

総合教育センター研究推進校

# 募集

校内研究  
への  
支援

学力  
向上

指導力  
向上

教員の自律  
的な学び

指導主事が校内研究をサポートします。



授業・学校づくり領域

小学校 **1**校 募集

- ・校内研究の活性化に向けた支援
- ・山梨大学と連携

具体的な支援には…

研究推進校の要望に合わせた**支援**

- ・研究授業の支援
- ・学習会の支援
- ・教員の自律的な学びへの支援

研究推進校の先生方からの声

- ・授業づくりの**楽しさ**がわかった。
- ・先生方と**共に学ぶ**ことができた。
- ・実りある**校内研**になった。

一緒に研究  
しませんか？